

平時の備えが防災力

能登町総合防災訓練

4年ぶりとなる大規模な防災訓練「能登町総合防災訓練」が9月27日に行われ、32機関・団体と約2千人の町民が参加しました。強い地震後の災害対策本部立ち上げや避難所の設営のほか、ヘリコプターによる上空からの被害状況調査など、警察や消防を始め、さまざまな立場の人が有事の際の備えを確認しました。



能登町総合防災訓練は、9月27日に小本中学校を主会場として行われました。午前8時45分に震度6強の強い揺れに襲われたという想定で、柳田山村開発センターでの災害対策本部立ち上げや消防職員の非常招集、津波避難指示の発令など、初動体制を確認しました。

訓練は町の全域で行われ、各小学校では、地元の中学生が避難所の運営にあたりました。避難所となった体育館では、段ボールを使った間仕切りの設置や、非常食の炊き出しなど、生徒たちが重要な役割を果たしました。



避難所を目指す住民



約 800 食の非常食が用意された



倒壊建物救出訓練



訓練当日の日程

- 8時45分
 - ・震度6強の地震が発生
- 8時48分
 - ・気象台が大津波に関する情報発令
 - ・柳田山村開発センターに災害対策本部、小本中に現地対策本部設置
- 9時
 - ・消防団による放水訓練
- 9時20分
 - ・備蓄庫から避難所へ、非常食輸送開始
- 9時30分
 - ・炊き出し訓練
 - ・電気、道路の復旧訓練
- 9時45分
 - ・防災ヘリ降下訓練
- 10時10分
 - ・飲料水供給訓練
- 10時35分
 - ・事故車救出訓練
- 10時45分
 - ・避難指示解除
- 10時50分
 - ・郵便局員による被害情報収集訓練
- 10時55分
 - ・倒壊建物救出訓練



道路復旧訓練

高所作業車での電気応急復旧訓練



事故車からの救出訓練



水消火器を使用した消火訓練



起震車で能登半島地震など、過去の震災の揺れを体験した



訓練の主役・中学生が

総合防災訓練を徹底検証

今回の総合防災訓練には、避難所運営の担い手として多くの中学生が参加しました。生徒の代表8人が10月16日、能都中学校に集まり、訓練を振り返りました。



総合防災訓練の避難所では、生徒が避難者誘導と受付、間仕切りの作成、非常食の炊き出しと配布にあたった。



総合防災訓練に参加した町内の中学生たちが、町の防災に生かそうと、意見交換会を実施しました。全国各地で防災に関する講演会などを行っているいわき市出身のフォトジャーナリスト・高橋智裕さんがコーディネートを務め、総合防災訓練を振り返りました。

高橋さんは東日本大震災取材中に津波に飲まれた経験があります。防災とは「命を守ること、人の痛みを知ること」であると話しました。

生徒たちは訓練で感じた問題点や疑問点、改善点を順に発表し、それらに対して高橋さんがアドバイスを{o}くりました。



能都中学校



避難者の受付の時、次々に人が来て、スムーズに運営できなかった。どうすればうまく誘導できるのかという課題が残った。

高橋さんのアドバイス

「スムーズに運営できない」ということは、訓練をやって初めてわかったこと。この良い経験を元に、どうすればよいのかを考えて、一歩ずつ進化して行くことが大切。

小木中学校



お年寄りを誘導するときに段差が気になった。防災カルタを披露したが、カルタで遊ぶことが中心になってしまった。避難する人の気持ちを考えるようにしたい。

フォトジャーナリスト

高橋智裕さん



防災には形がありません。何が防災に役立つのかは誰にもわかりません。訓練通りに災害が発生することは絶対にありませんが、訓練は防災について考える際の基本になります。繰り返すことで経験が積み上がり、勉強をして知識を得たときのように、いろいろな方向性が見つかるとようになります。物事に気づき、心に残すことが大切です。

生徒たちが感じた課題

柳田中学校



参加者が少なく、生徒が思うように活動できなかった。海が近い場所は津波が想定できるが、私たちも含めて防災意識が低かったのではないかと感じた。

高橋さんのアドバイス

海から遠い場所でも、川の増水や土砂災害などの脅威がたくさんある。どうしたら訓練参加者が増やせるのか考えよう。



高橋さんのアドバイス

自分1人で歩いているときは気づかないような段差も、お年寄りと一緒にだと障害と気づく。想定外の事を発見できた。次に生かそう。

避難者は心にダメージを受けている。中学生だからこそできるケアがある。避難訓練を行うたびに想像してみてください。



大人は自分の人生経験をもとに行動し、正しい判断ができないことがあります。中学生のみんなが行動をして、能登町を守ってください。これからは防災について真剣に考えて、活動をレベルアップしていきましょう。

災害用伝言ダイヤル「171」をご存じですか？

大規模な災害の発生直後は、安否確認などで電話を掛ける人が増え、「^{ふくそう}輻輳」と呼ばれるつながりにくい状態になります。大規模災害発生時には、通信会社により災害用伝言ダイヤルサービスが提供されます。

「171」に続いて加入電話番号を入力し、番号ごとに安否や避難場所を録音して、回線の混雑を回避して確実に連絡をとることができます。

伝言を残す人と聞く人の双方が利用方法を知らない、と、使うことができません。今回の訓練のような、通信会社の出張体験を利用するか、防災の日などの特定の日に利用するなど、普段から使用方法を確認しておきましょう。



総合防災訓練会場では、伝言の録音や再生を
実際にダイヤルして体験できる装置が設けられた

伝言の録音方法

1. ①⑦①にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
2. 録音する場合は①
▼ガイダンスが流れます
3. 被災地の電話番号を市外局番からダイヤル
(0□□□) □□—□□□□

伝言の再生方法

1. ①⑦①にダイヤルする
▼ガイダンスが流れます
2. 再生する場合は②
▼ガイダンスが流れます
3. 被災地の電話番号を市外局番からダイヤル
(0□□□) □□—□□□□

土砂災害の緊急速報メール

県では土砂災害警戒情報の発表とともに、土砂災害の危険が高まっていることを知らせる緊急速報メール配信を開始しました。

対応している携帯電話やスマートフォンをお持ちで、土砂災害の危険が迫っている該当市町に滞在する全ての人にメールが届きます。

通知される内容は、「土砂災害警戒情報の発表」と「危険が非常に高まっている地域名」です。平野部や海沿いなどの土砂災害の影響が直接ないところにも配信されます。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sabou/>

8dosya-soft/

県土木部砂防課 ☎ 076-225-1751

町の防災専用ページをご活用ください

町のホームページに「防災専用ページ」を開設しました。県や防災機関から送信される気象情報などを受信して一覧で表示するほか、指定避難所を地図上に表示することができます。

平時から活用して、災害に備えましょう。

<http://www.town.noto.lg.jp/www/bosai/index.jsp>



防災ページの画面

金沢大准教授が児童・生徒に特別授業

どうして訓練が大切なの？

家族や地域の人に

防災の知識を教えてあげて

総合防災訓練にあわせ、小木中学校では防災に関する特別授業が行われました。金沢大学人間社会学域の林紀代美准教授は中学生を対象に授業を行いました。

林准教授は平成25年に町で防災に関



珠洲市、加賀市、能登町で実施した住民アンケートについて説明する林准教授

するアンケートを実施しました。その結果、「何となく危険性を感じているが、災害の仕組みや内容については良く知らない」という町民が多くいることがわかりました。

小木中学校の防災の取り組みは、東日本大震災直後、平成23年から行われていて、防災に関する講演会や、修学旅行での被災地訪問など、生徒たちは地震と津波に関する知識を大人以上に持っています。林准教授は「皆さんには地震に関する豊富な知識があるので、家や地域の人に教えてあげてください」と話しました。アンケートでは、逃げるかどうかを判断できない人が多いことも示されました。「皆さんから声を掛けて、逃げるように促してください」と呼びかけられました。

大規模災害が発生した際には、電話が集中し、大切な電話がつかなくなる可能性があります。対策として災害用伝言ダイヤルがありますが、伝言する人と聞く人の両方が使い方を知らないという意味がありません。震災後も3割ほどの人し

か知らないため、普及が課題であることが紹介されました。

予測が難しい地震に比べ、大雨や台風などの災害は、事前に情報を得て、被害を小さくすることができます。林准教授は「地震以外の災害に対しても知識を深めてほしい」と話しました。

「津波が来るかもしれない」
大人に避難を呼びかけて



ランチルームでは青木賢人准教授が、小木小児童に津波の恐ろしさを伝えました。「津波から逃げ切るには、陸上競技のボルト選手と同じスピードで走り続けなければならない」と、低学年にもわかりやすいように、易しい言葉で津波の脅威を説明しました。

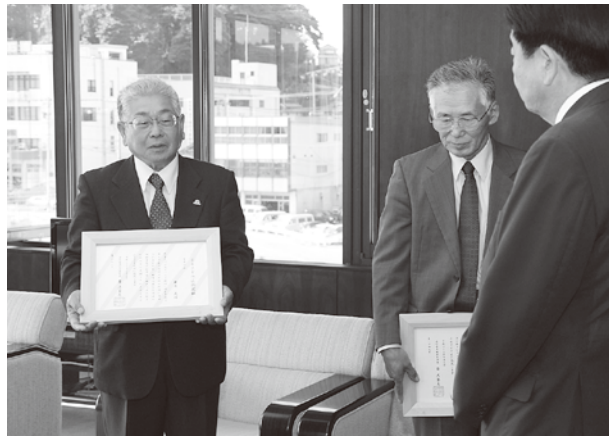
また、大人は自分の経験を元に行動するため、津波が目前に迫っても自分

が巻き込まれるとは考えない「正常性バイアス」が働き、逃げないことがあると紹介。「先入観を持たない児童のみなさんによる避難呼びかけが大切です」と話しました。

青木准教授は「訓練を続けていることで、小木に住む8割の人が避難場所を知っています。みんなの活動が人の役に立っています。周囲の人が津波災害の犠牲にならないように、これからも訓練を繰り返してください」とエールをおくりました。



青木准教授は津波のスピードを乗り物やスポーツ選手と比較して、わかりやすく説明した



認定を報告する田原さん、道重さん（左から右の順）



カンコ漁を実演する
道重さん

ブルーベリー管理講習会で
講師をつとめる田原さん



2氏が新たに「ふるさとの匠」に認定

「若手の育成に精進したい」

農林漁業に関する生産や加工、生活・文化において優れた知識を有する人を認定する「ふるさとの匠」に、道重一さん(67)＝小間生＝と田原義昭さん(65)＝柳田＝が認定されました。

田原さんは30年近くブルーベリーの栽培・普及に取り組んでいます。ブルーベリーを特産化し、果樹栽培を能登に根付かせようと、品質管理や栽培方法の研究に携わってきました。現在は約90人がブルーベリー生産に携わり、ワインなどの商品も開発され、町の産業として定着しています。田原さんは「ブルーベリー栽培が若い人につながるように努力したい」と、今後の意気込みを述べました。

道重さんはヤツメウナギを狙う伝統漁法「カンコ漁」に昭和50年から携わっています。ヤツメウナギはかつて、町野川に大量に遡上して秋の風物詩として親しまれてきましたが、護岸工事や農薬の使用など環境の変化によって世界的に激減しています。道重さんは漁の文化を守るだけでなく、ヤツメウナギの人工ふ化に取り組んでいる石川県立大に生体を提供するなど、その復活にも協力しています。

農林水産業功労者知事表彰

農業振興にさらなる期待

金沢市で10月3日に行われた「農林漁業まつり」で農林水産業功労者に対する知事表彰があり、田原義昭さん(65)＝柳田＝と西出宏さん(58)＝鶴町＝が受賞しました。

田原さんは地域農業の振興、西出さんは畜産業の振興に長年の功績が認められました。



知事表彰を受けた西出さん（前列左から3番目）

県原子力防災訓練

町では避難住民受け入れ訓練を実施

日時 11月23日(月)・(祝) 8:00～16:00
場所 ・松波、小木、柳田の各小学校体育館
・志賀オフサイトセンター、県庁ほか



全国瞬時警報システム「Jアラート」が聞こえたら

全国一斉情報伝達訓練

11/25(水)午前11時ごろ

・「Jアラート」から送られる、国からの緊急情報を確実に皆様にお伝えするため、情報伝達訓練を実施します。当日は屋外スピーカーと、宅内告知端末から訓練放送が流れます。
・放送内容「これはテストです」×3回

総務課危機管理室 ☎ 62-8513

「Jアラート」は、国（内閣官房・気象庁から消防庁を経由）が発した気象情報、緊急地震速報、弾道ミサイル情報など身の安全を守るために重要な緊急情報を、自動で瞬時に伝達するシステムです。「自分の身は自分で守る」ことを基本に、家族や職場などで放送が流れたときの行動について、普段から確認しておきましょう。



Jアラートの特色

瞬時性

国から住民に対し、瞬時に情報伝達できます。（所要時間は数秒から20秒程度です。）

自動性

人の手を介さず、自動的に起動します。
このため休日や真夜中でも放送されます。

直接性

国が有する緊急情報を、国から直接伝達できます。



ご留意いただきたいこと

「Jアラート」は、システムから自動的に放送されるため、**真夜中に放送**されたり、**誤報を放送**する可能性があります。しかし、重大な災害発生時には「自分の身を守る」初動がとても大切になります。一刻も早く住民の皆様に情報をお伝えすることを目的に緊急放送を実施していますので、ご理解をお願いします。

Jアラートの放送例

※放送は3回繰り返し行われます。



使用場面	警報音	音声放送
緊急地震速報 (推定震度4以上)	警報音 (チャイム音)	「緊急地震速報。大地震（おおじん）です。大地震です」
津波警報・大津波警報		「津波警報（大津波警報）が発表されました。海岸付近の方は高台に避難して下さい」
気象等の特別警報		「当地域に〇〇特別警報が発表されました。周囲の状況をみて、避難行動をとってください」
土砂災害警戒情報		「ただいま、土砂災害警戒情報が発表されました。テレビ、ラジオの情報に注意して下さい。」
武力攻撃等 弾道ミサイル攻撃	有事サイレン 14秒吹鳴	「ミサイル発射情報。ミサイル発射情報。当地域に着弾する可能性があります。屋内に待避し、テレビ・ラジオをつけてください」

緊急放送その① 緊急地震速報

緊急地震速報を聞いたら、あわてず、まず身の安全を。

- ・周りの人に声をかけながら、頭を保護し安全な場所に。無理に火を消したり、あわてて外に飛び出さない。
- ・人が大勢いる施設では係員の指示に従い、あわてて出口に走り出さない。
- ・自動車運転中はハザードランプを点灯し、ゆるやかに速度を落とす。

緊急放送その② 特別警報・土砂災害警戒情報

重大な災害の発生が予想される場合に発表されます。

- ・近年、集中豪雨により大きな被害が発生しています。土砂災害や河川の氾濫に注意してください。
- ・テレビやラジオなどで情報を収集してください。
- ・河川や崖地などに近づかないでください。
- ・避難の際は安全な経路で、時間がないときは建物の2階に上がるなどの安全行動を取ってください。